

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立入野小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>【成果】・学校評価システムを活用しながら、個人や部会の目標設定と反省を行った。改善策についても共通理解をすることができた。</p> <p>【課題】・9年間の学びと育ちを念頭に置きながら、小小連携・小中連携を進め、学力向上や心の教育、体力向上に向けた取組の継続と改善を図っていく。</p> <p>・新学習指導要領の実施に伴い、教職員の資質向上をめざし、授業改善を進め、研修の場の工夫をする。</p>
2 学校教育目標	自ら学び、まわりと協働しながら、これからの社会を創りだす入野っ子の育成
3 本年度の重点目標	<p>① 知・徳・体の9年間の学びと育ちを念頭に置きながら、肥前中校区で小中連携を推進していく。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実現。</p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有し、校内研修や学年部会等で取り組みについて紹介することで、より良い実践を探っていく。					・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
	○一人ひとりが考えを深めたり、広めたりするための指導の工夫(授業改善)	○「話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている」と回答した児童が80%以上。	・話し合い活動での教師の役割を明確にする。 ・話し合い活動での問い返しの言葉を吟味する。						・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上。	・人権集会・全校朝会や学級活動を通して、人権の大切さについて伝えていく。 ・道徳の授業実践を重ね、子どもの姿を見取る。そのための研修を行う。 ・体験を通して地域理解やその活動を通して、学んだことを自分や他者に発信する。					・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当 ・特活部	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○児童理解に基づく、いじめを許さない集団作りをすることができた教員80%以上。 ○いじめ防止について組織的に対応できていると回答した教員80%以上。	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルテストなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・生活アンケートを月に1回実施し、早期発見につなげる。 ・学年グループでの情報交換や授業の相互参観を通して、学級づくりへの助言を行う。						・生徒指導主任 ・生活部
	◎志を高める教育	○故郷が好きな児童の割合が90%以上。	・キャリアパスポートの効果的な活用について工夫していく。 ・郷土について学ぶ体験活動を整備していく。						・特活部 ・教務主任 ・各教科主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○朝食を食べて登校する児童90%以上	・保健だよりや給食だよりを通して食の大切さを伝えていく。 ・年に2回の「弁当をつくる日」や食育講演会などのPTAと連携して、親子で食について継続的に考える機会を大切にする。					・食育担当 ・保健主事 ・保体部 ・PTA担当	
	○運動習慣の定着と改善	○15分休みや昼休みに運動やスポーツを行う児童が70%以上になる。	・児童の実践意欲を引き出すように、学習カードや呼びかけの工夫を行っていく。 ・柔軟性や体感を高めるために、授業の始まりに「体づくり運動」を取り入れる。						・保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・退勤予定時刻や提出物の締め切り日を呼び掛けることで時間を意識して業務を遂行できるようにする。					・管理職  ・全職員	
	○情報の共有化と業務の平準化	○業務改善に対する効果を感じる職員の割合70%以上。	・共有フォルダーを活用し、様式や資料の共有を図り、効率的に業務を進める。 ・専門部や学年グループで協働的に業務を進め、負担が個人に偏らないようにする。						

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上。 ○特別支援教育の研修会2回以上。	・必要に応じて適宜、支援会議を実施する。 ・特別支援に関する研修会の実施。 ・ユニバーサルデザインに基づく学級掲示や経営を促進する。					
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚と安全教育の充実	○危険予測能力が向上した職員の割合が80%以上。	・事例研修等を適宜取り入れ、危機管理意識を高めておく。 ・組織で対応できるように、日頃から「報・連・相」を徹底しておく。 ・安全教育では、体験的学びと振り返りを大切に、自ら命を守るようとする意識を高める。 ・KYT(危険予知トレーニング)の効果的な活用。					
○小中連携の推進	○9か年の学びと育ちを念頭に置いた、幼小連携、小小連携、小中連携の工夫	○肥前中学校区での学習公開や体験活動を推進する。(授業公開1回、研究発表会1回、合同体験活動3回以上。)	・行事や学習を相互参観したり、合同で行ったりする。 ・中学校区で設定した共通目標に照らし合わせて、随時、評価・改善していく。					

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>
----------------	-------------------------------